

# ドリームキャッチャー Dream Catcher

☆2013年5月30日にスママガMLへイベントの案内を送信くださいました鈴東さんに、イベントの企画から当日の話をご寄稿いただきました。1ページと4ページの前後編にて掲載します。

## ☆☆ 語りま SHOW TIME について (前編) ☆☆

大阪府 鈴東裕己

語りま SHOW TIME とは、しょうがいの有無に関わらず、それぞれが遠慮すること無く、お互いを認め合う事で正しく理解し、交流できる場を目指して継続的に行うイベントです。このイベントを行おうと思ったきっかけとして、私個人としては将来的に執筆活動や講演を通して、自分の経験や思い(仕事、1人旅、アメリカ留学(行けたら)など)を伝えていく事で、しょうがいを持たれた方や自分に自信を無くしてしまっている人を応援したいと考えています。また、しょうがいを持たれた方に社会や外に出てほしいという思いがあって、私自身保育所から専門学校まで、普通学校に通ってきた中で多くの刺激をもらい、逆に刺激をもらったという声も聞きます。そのように刺激を受けることで、生きがいや楽しみの1つとして感じてほしい、しょうがいを持った方のコミュニティの中で過ごしてきた人にも新たなつながりを持って欲しい、逆にしょうがいを持たない方にも交流することで刺激を受けたり、正しく理解をしてもらいたいという思いから、今回企画しました。私自身しょうがいを持たれた方との接点がないので、最初はたくさんの意見を聞いてから場づくりを始めようと思ったのですが、相談を持ちかけた生活支援センターで1度実際にイベントをやってみようと言っていたら、今回この場が形になりました。



準備も大変です。月、水、金は仕事のため、準備ができません。休みの火、木を使ってミーティングを行い、より楽しい場を作るための企画をします。実際のミーティングもうまく進みません。4月中旬に相談に行ってから週1回3時間程度のミーティングでは自分が作ろうとしている場と、生活支援センターで作ろうとしている場で多少方向性にずれが生じて、どこで折り合いをつけるか、何を目的に行うかを考えながら話を進めていくと、あっという間に本番まで1週間を切りました。仕事の方でも忙しい時期でもあり、自分自身余裕を持てずにいました。そして2日前のリハーサルでまさかの出来事が起こりました。急遽もっと楽しんでもらえる内容にしようと内容の大幅変更となったのです。更にその日は私用で早く家に帰る必要があり、内容が未確定のまま帰宅をすることに。翌日は10:50~18:30まで仕事なので、内容を決める時間がありません。結局本番当日の朝に集まって話し合う事になりました。結局内容が確定したのがイベント開始1時間前というギリギリとなってしまい、そこから会場に向かいました。そこで想像を絶するアクシデントが。電動車いすのフットレストが取れてしまい、動けなくなってしまったのです。不幸中の幸いで、動けなくなった場所が自転車屋の前で、すぐに直してもらえました。そしてようやく会場へ、到着すると15分開始時間をオーバーしているという大失態の幕開け。本当に申し訳ございませんでした。先に到着していた生活支援センターの方と司会をバトタッチ、いよいよ語りま SHOW TIME が始まりました。



(続きは4ページへ)

### ☆「希望会チャット」第14回(2012年12月9日開催)ダイジェスト版①☆ (氏名は希望会ハンドルネーム)

【2012年冬 東北】

とび : 北海道も今日は雪ですか?

myura : 昨日は荒れてましたが...まあ、例年通りですね。

地震はどうでした?

とび : 地震は...もう心臓に悪く、一昨日はクタクタでした。帰宅ラッシュと重なりどこも渋滞で、3.11と同様の津波だったらのみ込まれていました。

myura : 逃げようがないですしね。

とび : 高い建物にも正直難しいですし...

myura : 高い場所に住むしかないですよええ。

とび : そうですね。って言っても山とかの住宅地は

お金持ち集団の場所になってるし。

津波の来なかった地域は軒並み土地の価格が上がっています。

☆チャット会でも毎回話題に上がり、東北の現在の状況をお伝えくださる飛川さんに、  
今だから語れる当日の様子、その後や気に留めておくべきことについてご寄稿いただきました。

## ☆☆東日本大震災の経験とその後☆☆

宮城県石巻市 飛川 義親

2011年3月11日金曜日午後2時46分。あの時のことは2年経った今でも忘れることができません。その日は週1回行っているデイサービスの日で、午後の活動は卓球バレーをやっていて、もう終了間近という時にカタカタと小さい横揺れが数秒続き『ゴゴゴー』と地鳴りと同時に強烈な縦揺れ。車椅子から落ちないように必死に踏ん張り、あちこちからガラスの割れる音や物が落ちる音が…職員は近くの利用者を必死で支え、揺れが収まるのを待っていましたが、永遠に続くんじゃないかと思うほど長く激しい揺れでした。

やっと揺れが収まってもパニック状態で何をしたいのかわからず、まわりを見れば電気は止まり照明や暖房もテレビも消え、外を見ると雪が降っていました。

寒さで震えていたのか、恐怖で震えていたのかはわかりません。

宮城県は地震の多い土地で何年も前から90%以上の確率で巨大地震がおきると報道され防災を強化していました。あくまでも地震による家屋の倒壊やライフラインが寸断された状態を予想した訓練でした。

地震の揺れで施設内もパニックになりましたが、幸いにも怪我人もいませんでした。

しかし何がどうなったのか正直わけがわからず、咄嗟に携帯のワンセグ放送を見ました。

今、覚えているのは『震度7』『大津波警報』の言葉です。

正直な話、その時は地震の大きさだけが気になり、津波はあるかもって思いましたが、海から数キロ離れているココまで来ないだろうと思っていました。

とりあえず家に一人でいた母に連絡しお互いの無事を確認しました。この頃までは何とか携帯が使える状態でした。



大津波警報が出たこともあり施設から内陸部へ約1km離れた他施設に移動することになったのですが、移動の準備中に『津波が来ているので逃げろー』と外から聞こえてきて、到底今から車に乗って避難も出来ず、隣の病院へ急遽避難することになったのですが、病院の駐車場には既に真っ黒い水が押し寄せていました。

職員が一人ずつ病院内に担ぎ上げ全員何とか避難することが出来ましたが、1階では危険だということで、エレベーターも動かないのでまた一人ずつ担いで2階へ避難しました。

病院の会議室にブルーシートをひいただけの床に寝かされ余震に怯えながら、外がどうなったか一切わからず一晩を過ご

しました。

次の日の朝早く、病院も使用するため避難者全員移動することになり、一階へ降りて外を見るとデイの施設には津波で流されてきた車や材木が突き刺さり、何がどうなっているのか理解するまで時間がかかりました。数台残ったデイの車で内陸にある老人施設まで避難しましたが、いつもの道は通行止めで通れず大きく迂回をし、普通の倍以上の時間を掛けてやっと到着しました。

道中は津波で流されたであろう車が何重にも重なり、建物には船や車が入り込み内戦で爆弾でも落とされたような光景が広がっていました。

老人ホームに到着後に、前日の昼食以来のビスケットとお水を口にすることができました。やっと落ち着いて外を見ると、目の前の田んぼにも津波が来ていて海水で今にも溢れそうになっていました。

不眠不休で利用者のお世話をしていた職員の人達は、家族の安否も確認出来ないままで本当に疲れ切っていて…

そんな時お袋が迎えに来てくれました。職員やホームの方にお礼を言って帰りましたが、やっぱり何処も通行止めで強行突破してやっと国道にでることができましたが、あちこちにはご遺体があり改めて被害の大きさを実感しました。家はギリギリで床下浸水で済みましたが、汚泥で車から降りることもできず、その日は車中泊することにしました。

(3ページへ続く) ➤

真っ暗な上に、度々鳴る緊急地震速報と大きな余震で結局丸二日一睡もできませんでした。次の日に車椅子が通れるくらいの汚泥をかたづけ、やっと家に入ることが出来ましたが、自分の部屋では大きな本棚が倒れてグチャグチャになって入ることができませんでした。震災後3日がたっても強い余震が収まらず、いつでも避難できるようにとベットではなく車椅子にのったまま仮眠をとる程度で過ごしていました。電気が止まった状態では、家電の使用は全くできず、TV・PC・携帯も。電動車椅子に乗っているため充電もできず、ほとんど動くこともできませんでした。電気が復旧したのは震災後2週間以上たった頃で、改めて電気のありがたさを実感しました。それを踏まえ家では小さいですが発電機を買っておきました。食事は朝晩だけで、プロパンガスだったため使用可能で、最初は冷凍食品をフライパンで温めて、ご飯は土鍋をストーブの上におき炊いていました。ライフラインが復旧するまでは、明るくなれば起きて暗くなる前に夕食をとり休むという感じで、夜はロウソクを灯し消えれば寝るという状態でした。そんな生活が2週間以上続きましたが、屋外の給湯設備やエアコン機器は津波の被害で使えず、お風呂に入れたのはもうちょっと先のことでした。ガソリン、灯油が買えるようにはなりましたが、朝早く並んで帰って来るのはお昼過ぎでした。現在は何とか普通の生活ができていますが、まだまだ復興の「ふ」の字も行われていない状況です。特に福祉分野はなかなか進んでいません。震災前、石巻市では大きな災害に備え独居老人や障害者で一人では避難できない人が市と地域民生委員との間で『災害時要介護者登録』を交わしていました。しかし震災が起こっても安否確認すら行わず、ここまで巨大な災害では全く機能しない登録でした。この震災で障害をもって、逃げるに逃げられなくて亡くなっていった友人、知人も多くいて本当に残念でなりません。しかしこれが現実で、石巻市では障害者手帳を持っている人の死亡率が今回の被災地で一番高かったそうです。また避難所に避難していても、障害を持っている人達にとっては大変で、トイレを利用するにも人手が必要で、迷惑がかかるからと水分を控え耐えている人も多くいました。また、周りの人に迷惑がかかるからと、被災して壊れた家に住み続けた人もいたそうです。正直な話、行政は麻痺し全く機能していませんでした。幸いにも自分は家も残りなんとか生活していますが、浸水地域で同規模の地震がきたらと思うと安心を得るにはまだまだです。昨年の余震で津波警報が出た時、車で避難しましたが渋滞に巻き込まれ、浸水地区から脱出することはできませんでした。こんなことであればまたあの時と同じことの繰り返しで、避難ビルがあればどんなに良いか改めて実感しました。安心して暮らせる街作りの為に、これからも市に色々な提言をして行きたいと思います。

この震災を経験して言いたいのは、沿岸沿いにお住いの方にはとにかく『逃げる!』ということです。命があればなんとかなります。

次にあらかじめ避難路の確認と、車を持っている方はガソリンをギリギリではなく余裕を持って給油は必要だと思います。薬を常時服用している人は、最低でも3日分は準備しておいた方が良いでしょう。呼吸器や痰吸引機が必要な方は、予備電源がある病院や施設の確認をしておいた方が良いでしょう。何もないのが一番良いのですが、災害はいつでもどこで何が起こるのかわかりませんので、いざその時のための準備は決して無駄ではないと思います。

最後にこの震災で大変ご心配をお掛けして申し訳ございませんでした。連絡を下さった役員の皆様ありがとうございました。

復興はまだまだ始まったばかりですが、きっと人が諦めなければ復興すると思います。私も負けずに頑張っていきます。がんばっぺ。



## ☆☆ 語りま SHOW TIME について（後編） ☆☆

15分遅れでスタートした語りま SHOW TIME。スタッフを含め18名の参加者が集まってくださった事に本当に感謝したいと思います。1時間前に決まった内容を基にあいさつ。自分自身焦っていた事もあり、大分早口になってしまっていた事は次回への反省点。そしてそれぞれの自己紹介では自分の名前(今日呼ばれたいニックネーム)や今の心境など簡単に行いました。語りま SHOW TIME のイメージとして『魔法』を掲げていたので、「メッセージ」という呪文を用意してそれぞれ名前を言った後に全員で呪文を唱える事で、一体感と名前を覚えてもらう演出を加えました。そして、アイスブレイクとして爆弾じゃんけんと言った交流ゲーム、あみだくじによるチーム分けを行い、いよいよテーマに基づいての交流。今回3グループに分かれてもらい、第1テーマ「休日の過ごし方」を2グループに「あなたの夢」を1グループのテーマとして、各グループ6人が円になって、1人4分以内でテーマに基づいたお話してもらい、話終わったら2分間の質問タイムを目安に交流しました。

私自身グループに入っていたため、完全に全体を把握できていませんが、どのグループもとてもしつこい雰囲気、たくさんの笑顔が見えていた事が凄く嬉しかったです。休憩を挟んでグループのメンバーを入れ替えてから、交流第2ラウンドがスタート。第2テーマは1人ずつくじ引きで決めていくということで、ワクワク要素も取り入



れました。テーマ自体にも「魔法が使えたら」「1日誰かと入れ替わるなら」など面白い質問も入れてより楽しい雰囲気での交流ができました。最後の振り返りでもグループで「感想」「今後への期待」を1人1人話してもらい、最後はグループの意見を代表者に発表してもらいました。楽しかったという声やいろいろな人と交流で来てよかったという声が多く本当に嬉しかったです。もっと幅広い年齢やしょうがいを持った人への呼び掛けてほしいという声や、今後タコ焼きパーティーやバーベキューなどもしてほしいという声が出ていて、改めてしょうがいを持った方と健常者が交流できる場やきっかけが少ないと気付きました。このような

場の意義も含め、今後も続けていきたいと思いましたが、しょうがいを持った方が外に出る、社会と繋がるきっかけを作って行きたいと思いましたが、何よりみんなに楽しんでもらった事、新たな繋がりができた事は本当に良かったです。遅刻したことや準備不足も踏まえて、改善点は多々ありますが、次回以降より良いものを作る糧として勉強していきたいと思えます。私を信じてきてくれた人、楽しみに来てくれた人、思い切って来てくれた人全ての人に感謝したいと思います。

### ☆第14回「希望会チャット」イigest版(2012年12月9日開催)②☆ (氏名は希望会ハンドルネーム)

#### 【2012年冬 北海道】

myura: こっちは夜3時ごろに除雪車が来て起こされました。

とび: 一晩中除雪なんですか？

myura: 除雪時間は30分くらいですけどね。降ってる最中も作業するんで、一日に2回とかありますよ。

とび: それも大変だけど、やってもらわないとほんと大変ですよ。

myura: まあ・・・細かい除雪は地域住民がするんですが。あさ6時ぐらいに出てきてやってますね。

とび: やっぱ除雪業者っているんですか？お年寄りとか障害をもって出来ない人のために。

myura: 個人宅で除雪できない人のサービスはありますね。あとシルバー人材センターにお願いしたり。屋根雪は業者さんかな。とび職の冬のバイトです。

#### 【2012年冬 年末年始】

kana: 正月もヘルパーはちゃんと来る？

myura: 大晦日から元旦のどっちかですわね。

kana: 雑煮とかどうするの？

myura: 雑煮食べる習慣もないんで。

kana: そうなの？それは北海道だから？

それとも個人の嗜好？

myura: 北海道は大晦日からどんちゃん騒ぎで年こしますが。

kana: ああ、けんみんショーでみた！

myura: 大晦日からおせち食うんですよ。

2012年は希望会チャット第13回(8月5日)、第14回(12月9日)を開きました。

今後も開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください。